

# 令和7年度 新たな横浜市指定文化財 を指定します

横浜市文化財保護審議会(会長 山本 勉 氏)の答申を受け「銅造 聖観音菩薩坐像」ほか2件を横浜市指定文化財に指定することを決定しました。今回の指定により、横浜市指定文化財は180件になります。

今後、関連イベントとして、横浜市歴史博物館にて令和8年1月31日(土)から3月15日(日)まで「令和7年度横浜市指定・登録文化財展」等を開催します。

12月25日(木)の告示をもって正式に指定されます

	種別	名称及び員数	所有者
1	有形文化財(彫刻)	銅造 聖観音菩薩坐像 1 軀	宗教法人 證菩提寺
2	有形文化財(絵画)	春日 社寺 曼荼羅 1 幅	宗教法人大本山 總持寺
3	有形文化財(歴史資料)	旧三井 物産 横浜 支店 倉庫 建築部材 5 点	横浜市

## 文化財概要

### 1. 銅造 聖観音菩薩坐像(彫刻)《南北朝時代》

所有者: 宗教法人證菩提寺 所在地: 栄区上郷町 員数: 1 軀



證菩提寺の本堂に安置される銅造の聖観音菩薩坐像。(像高 31.9 cm)  
南北朝時代、延文2(1357)年11月に覚王という人物を願主として製作されたという意味の陰刻がある。

左手に 未開敷 蓮華 を持ち、胸前に立てた右手でその花びらを開こうとする姿は『聖観自在菩薩心真言観行儀軌』に説く聖観音菩薩の姿で、現図 胎蔵界 曼荼羅 蓮華部院 の主尊にもほぼ一致する。高髻を結び、如来像のように 衲衣 を着ける菩薩像の姿は、宋画あるいはそれに範をとった、鎌倉時代以降の仏画には事例が多く、そのような画像に倣ったいわゆる宋風の姿とみられる。

證菩提寺の建立に関わった源頼朝は、聖観音菩薩像を深く信仰していたことが知られており、聖観音菩薩像が證菩提寺に伝来することは貴重である。

### 【指定にあたっての審議会評価】

本像は南北朝時代の年紀が判明する金銅仏として重要であり、證菩提寺の寺史とのかかわりも注目される。本市の美術史上、文化史上ともに極めて貴重な作品である。

裏面あり



GREEN×EXPO 2027  
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



## 2. 春日社寺曼荼羅(絵画)《室町時代》

所有者：宗教法人大本山總持寺 員数：1幅 所在地：鶴見区鶴見



写真提供：宗教法人大本山總持寺

古来、宮廷 貴<sup>き</sup> 紳<sup>しん</sup>の間では、奈良の春日権現への信仰が根強く、特に藤原氏は祖神として、その崇敬の念はことさら篤いものがあつた。この神の宿る神域や春日野を図絵した春日曼荼羅を本尊として自邸に掛け礼拝の対象として用いた。

春日曼荼羅は、春日社の社域および社殿や 御蓋山<sup>みかさやま</sup>を中心に描いた春日宮曼荼羅が基本だが、さらに春日鹿曼荼羅や春日社寺曼荼羅などがある。

### 【指定にあたっての審議会評価】

本図はほぼ上半部に春日の神域を描く宮曼荼羅と、下部には春日社を管掌した興福寺の各 伽藍<sup>がらん</sup>の本尊を付加するという、春日社寺曼荼羅の形式をとる。さらに裏書からは市井の春日講で制作使用されたことがわかる点でも重要である。

このような銘記がそのまま残されている作品は珍しく、今は消滅しつつある多く存在した春日講の存在を知らしめる上で、重要である。

本図は室町前期の制作とは言え、南都（奈良）絵師の高い技量を示しており、銘記の存在から当時の基準作に値するものである。さらにその社会的背景を考察する上でも、大きな意義を持っている。

日本に深く根付いた春日信仰の形態と造形を知らしめる基準作品という普遍的な価値において、市指定文化財にふさわしい作品といえよう。

## 3. 旧三井物産横浜支店倉庫 建築部材(歴史資料)《明治 43(1910)年》

所有者：横浜市 員数：5点 所在地：栄区野七里

- ① 地階部および1階部の柱切断片1個（鉄筋コンクリート造および煉瓦造）
- ② 1階上部の柱および2階部の柱切断片1個（鉄筋コンクリート造）
- ③ 屋根スラブの断片1個（鉄筋コンクリート造）
- ④ 床 梁<sup>はり</sup> 1組（松材をボルトで繋いだもの）
- ⑤ 床 大引<sup>おおびき</sup> 1本（松材）



次頁あり



**GREEN x EXPO 2027**  
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



旧三井物産横浜支店倉庫は、横浜市中区日本大通に所在する旧三井物産横浜支店ビル（現K N日本大通りビル）後方に隣接していたが、平成 27（2015）年 3 月に解体撤去された。

旧三井物産横浜支店倉庫は、遠藤於菟<sup>えんどうおと</sup>の設計で明治 43（1910）年 7 月に竣工した地上 3 階・地下 1 階、建築面積約 549 m<sup>2</sup>、延床面積 2,194 m<sup>2</sup>の建築である。

外壁や間仕切壁は煉瓦造、柱と屋根スラブは鉄筋コンクリート造（地階柱は煉瓦併用）、各階床組は木造の混構造であり、遠藤於菟が旧三井物産横浜支店ビル設計に際して、鉄筋コンクリートを用いた構造形式と外部意匠を試行した建築といえる。

2014 年に取り壊し計画が明らかとなり、これに対して多方面から保存活用を求める要望書が寄せられたが、旧三井物産横浜支店倉庫は平成 27（2015）年 3 月に解体された。そのような中で、所有者と交渉の結果、解体部材の一部は横浜市教育委員会が寄附を受けた。

#### 【指定にあたっての審議会評価】

横浜市教育委員会が受け入れた旧三井物産横浜支店倉庫の建築部材は鉄筋コンクリート造・木造・煉瓦造による混構造の特徴を具体的に示すものであり、日本の鉄筋コンクリート造建築導入初期の様相を伝える実物資料として、極めて貴重である。

※写真のデータ提供が可能です。ご希望の方は、電子メールにてご連絡ください。

（教育委員会事務局生涯学習文化財課 [ky-bunkazai@city.yokohama.lg.jp](mailto:ky-bunkazai@city.yokohama.lg.jp)）

### 新たな指定文化財を紹介する関連イベントを開催します！

#### ■令和 7 年度 横浜市指定・登録文化財パネル展

今回新たに指定された文化財等をパネルにて紹介します。

【期間】令和 8 年 1 月 21 日（水）正午～1 月 27 日（火）15 時

【場所】横浜市役所 1 階 展示スペース B



歴博 HP

[https://www.rekihaku.city.yokohama.jp/koudou/see/event/eventlist/kikakuten\\_event/20260121-27bunkazaipanel/](https://www.rekihaku.city.yokohama.jp/koudou/see/event/eventlist/kikakuten_event/20260121-27bunkazaipanel/)



昨年度の展示様子

#### ■令和 7 年度横浜市指定・登録文化財展 ※報道関係者向けの内覧会を開催予定です。

今回新たに指定された文化財等の実物展示や紹介、＜みかた＞を解説する展覧会を横浜市歴史博物館にて開催します。日頃見ることができない仏像を拝観することができ、会期中には学芸員による展示解説や講演会等も行われます。

※企画展「みすてりい・おぶ・こもんじょー古文書の世界へようこそ」と同時開催

【期間】令和 8 年 1 月 31 日（土）～3 月 15 日（日）

※開館時間・休館日・観覧料等の展覧会に関する詳細は、横浜市歴史博物館の HP をご確認ください。



歴博 HP

<https://www.rekihaku.city.yokohama.jp/koudou/see/kikakuten/2025/bunkazai.komonjo/>



展覧会チラシ

【場所】横浜市歴史博物館 企画展示室

※取材される場合は、お問合せ先へご連絡をお願いします。

#### お問合せ先

【文化財指定に関すること】教育委員会事務局生涯学習文化財課長 渡辺 貴士 TEL 045-671-3236

【関連イベントに関すること】横浜市歴史博物館 副館長：刈田 広報担当：神谷・仲泉・花澤 TEL 045-912-7777



**GREEN×EXPO 2027**  
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷